



論壇花絮 ▶

池上掃墓 向馬耳東風致意

池上での墓参り 馬耳東風に敬礼

池上に 있는 마부찌무덤에게 문안

Tomb Sweeping in Chihshang, a Salute to Mabuchi Toichi

文 | 編輯部

日本語翻譯 | 森田健嗣

馬淵東一在30歲那年（1939年），於中央山脈進行台灣原住民研究田野調查，下山時又病又累，非常狼狽。所幸在台東池上遇到一位阿美族媽媽，心生愛憐便把他帶回家中休養。馬淵東一與婦人的兒子金太郎（戰後改名高光雄，比馬淵東一小10歲）從此結為莫逆之交，兩家的情誼日久彌堅，如今已傳了四代。

馬淵家與高家的合照。
馬淵家と高家の集合写真。

（圖片提供：高明生）



馬淵東一は30歳の時(1939年)、中央山脈で台湾原住民フィールド研究調査を行っていたが、山から下りると病や疲れでとても困り果てていた。運よく台東の池上で一人のアミ族の夫人に出会い、たいそう不憫に思い彼を家に連れていかせ休ませた。馬淵東一とその夫人の息子・金太郎(戦後は高光雄へと改名、馬淵東一より10歳年下)はその時から極めて親密な付き合いとなり、両家の友情は日に日に深まり、今日まで4代にわたり続いている。

馬淵が落ちて高家が拾いあげる

8月27日午後、2日間にわたるフォーラムが終わりにさしかかったとき、大会は特に高明生氏と夫人の陳春榮氏を招いて「馬淵を追想する」というテーマの座談会を開き、両家の深い付き合いを分かち合った。馬淵悟教授は高家を紹介する際、父はブヌン族調査で「路の上に落



馬淵東一夫婦（左二、左三）、馬淵悟（右一）與高光雄夫婦。
馬淵東一先生夫妻（左から二人目と三人目）、馬淵悟先生
（右端）と高光雄さん夫妻。
（圖片提供：高明生）

馬淵掉下去 高家撿回來

8月27日下午，為期兩天的論壇已進入尾聲，大會特地邀請高明生先生及其夫人陳春榮女士一同出席「追憶馬淵」的主題座談，分享兩家的淵源過往。馬淵悟教授介紹高家時笑言，據說父親在調查布農族時「掉到路上」，所以高家把他「撿回來」；但向父親求證時，父親卻堅稱沒有這樣的事。

高明生回想道，他是在就讀國中時認識了馬淵東一，初次相遇的场景至今仍記憶猶新。有天放學回家，他發現家中竟然出現一位日本人；那時他年紀還小，只曉得馬淵東一在做學術研究，然後「晚上怎麼又非常熱鬧」。因為父親（高光雄）都是以日文與馬淵東一交談，「我聽得懂的，就只有喝酒唱歌。」池上是馬淵東一進入海端的落腳處，每次馬淵從台北下東部，一到池上，左鄰右舍就會非常高興地為他慶功或一起吃晚餐。待一、兩個月以後，馬淵東一就上山了，總要等上十天、半個月才會回來。

ちて」高家が彼を「拾って連れて帰った」そうだが、父に確かめたところ、父は決してそのようなことはなかったと答えた、と笑いながら述べた。

高明生は中学生の時に馬淵東一と知り合い、その初めて会った時の情景を今でも鮮明に覚えている、と回想していた。ある日学校が終わり家に帰ると、家に一人の日本人がいるのをみつけた。当時彼はまだ幼く、ただ馬淵東一が學術研究をしている、ということだけを知っていて、「夜になると、なぜとてもにぎやかになるのか」と思っていた。それは父(高光雄)が日本語で馬淵東一と話をしていたためであり、「私が理解できたのは、酒を飲むときの歌だけだった。」池上は馬淵東一が沿岸部でしばらく留まる場所であり、馬淵が台北から東部に下り池上に到着すると、いつも隣近所の者が喜んで彼の成功を祝い食事を共にしていた。1、2カ月留まってから、馬淵は山に登り、10日から半月経って戻ってきていた。

馬淵悟は1948年生まれで、高明生は彼より4歳年下である。高明生は高校のころ馬淵悟と知り合った。そのとき馬淵東一は馬淵悟ら5人の学生を引き連れて高家を訪ね、地域をあげて彼らを「酒を飲もう、歌を歌おう、馬淵悟は酒に酔おう」と祝福していた。馬淵東一が亡くなったからは馬淵悟が遺灰を池上まで運び、高光雄により高家の祖先からの土地に埋葬された。

「当時、私のおじも日本統治時代に教師を務めていたので、馬淵は私のおじの墓のそばに埋葬するようことづけていた。」

耳をそばだてて東からの風を聴く

馬淵東一の墓は池上郷の共同墓地内にあり、高家の墓のすぐ近くにある。細い道を50メートル





豐盛的祭品與美酒。
盛り沢山の供物と美酒。

(圖片提供：編輯部)

馬淵悟出生於1948年，高明生只小他4歲。高明生大約是在高中時期認識馬淵悟，那次馬淵東一帶了馬淵悟等5位學生到高家，地方又為他們祝福、慶賀，「就喝酒啊，唱歌啊，馬淵悟都醉倒了。」而馬淵東一逝世以後，他的骨灰由馬淵悟帶到池上，請高光雄將其葬在高家祖地。「然後當時我的大伯在日治時代也是當老師，所以他說一定要葬在我大伯的墳墓旁邊。」

豎起馬耳 聆聽東風

馬淵東一的墓位於池上鄉公墓內，與高家祖墓比鄰，走入小徑約50公尺處，由數棵楓香圍

ルほど進んだところに、数本の楓が囲む空き地がある。8月28日午前、日台の研究者が墓参りした際、高家の子孫は盛りだくさんの供え物や酒を用意して、「馬耳東風」の墓前に供えた。この4文字は人類学者の陳奇禄が提案したもので、長さ約90センチ、幅約60センチの黒色の大理石に刻まれている。

追想式は高明生夫妻と馬淵悟教授により進められた。3人はまず土地公を拝み線香を立て、そして搏筊(ポアポエ：神の意志を仰ぐ占い)を用いて馬淵東一が到着しているかどうかを確かめた。一度で「搏到聖筊」(2つの札がそれぞれ表と裏に並んだ状態)になったため皆が拍手して笑い、馬淵先生は待ちきれなくなって酒を飲んだ。高家は紙銭を用意し、その紙には和服、酒、くしなどの生活用品が印されていた。これは馬淵東一が盛大な宴会に参加するため、髪をすき、服を着替えて着飾るよう願うためである。高明生は墓前の色とりどりの酒瓶を見ながら、「彼は酒を飲んでしばらくすると、すぐ馬拉桑になってしまう(アミ語で「酒に酔う」という意味)」と笑って言った。

式が終わってから、台湾史前文化博物館南科分館籌備處・林志興主任の司会により、馬淵東一生誕100年記念会が開かれた。まず政治大学原住民族研究中心の林修澈主任が台湾の研究者を代表してあいさつし、酒を捧げた。林修澈主任は「あなたの一生は神話のようで、馬淵家と高家の友情は伝説のようだ。あなたの学問は後代の者への恵みだ」と述べて会が開かれ、馬淵東一の学術成果や影響に敬意と謝意を示した。原住民族学術研究が盛んになることを望むほかに、馬淵東一と台湾原住民族の間の友情の深さを思い、林修澈は感性的に「だが今年、台湾には大水害が起き、多くの原住民族は村や一族が



繞之空地。8月28日上午，台日學者前往掃墓時，高家子孫已備妥豐盛的祭品與美酒，置於「馬耳東風」墓碑前。此4字由人類學家陳奇祿先生所提，刻於長約90公分、寬約60公分的黑色大理石上。

追思儀式一開始，先由高明生夫婦及馬悟教授進行家祭；三人先拜過土地公、上香，再以擲筊的方式確認是否已請到馬淵東一。由於一次就擲到聖筊，眾人拍手笑說，馬淵老師似乎很迫不及待地要喝酒。高家準備了金紙，紙上印有和服、美酒、梳子等生活用品，請馬淵東一梳洗、更衣，好好打扮一番以出席盛宴。高明生看著墓前錯落有致的酒瓶笑說：「他都吃混酒，他等會兒很快就馬拉桑（阿美語的「酒醉」）。」

高明生解釋大、小墓碑的由來。

高明生さんによる大小墓碑の由来説明。

(圖片提供：編輯部)



滅ぶという悲惨な状況にあります。あなたが彼らをとこしえに楽しく生きられるよう守って下さることを望みます」と述べた。

日本の横浜国立大学・笠原政治名誉教授は日本の研究者を代表してあいさつした。笠原教授は、これほど多くの方が馬淵東一先生の生誕100周年のためにここに集ったことは、馬淵先生の仁徳である、と述べた。80年前、馬淵先生がどのように池上の地を歩いたのかは想像できないが、「一つははっきりしていることは、ここは日本と台湾が結び付いているとても大事な聖地だ、ということだ。」笠原教授はユーモアを忘れずに、もし馬淵先生がこの酒に満足なされないのであれば、夢枕に立って、お飲みになりたいお酒のブランドをお教えてください、と述べた。

続いて、林志興主任が「向山林深處追憶你的典範(山林の奥深くにあなたのパラダイ)」という詩を捧げ、政治大学民族学科修士課程の山西弘朗が日本語に通訳した。

家族からの感謝のことば

馬淵悟教授は家族を代表して感謝のことばの中で、今日これほど多くの方が墓前に参られたことは、彼を非常に驚かせることでしょう、と述べた。実のところ、当時の父は原住民族研究分野の研究者を養成することを望んでおり、父が黄貴潮氏に出会い、黄貴潮氏も研究を成し遂げられた後、務めは果たしたと考えていた。今日、原住民族研究者の数がこれほど多く、そして養成しなくても自ら進んで学んでいるとは、馬淵東一は決して思わなかったことだろう。台湾原住民族研究の現在の状況は、馬淵東一の期待をすでに超えているが、後に続く者がこの分野をさらに切り開き、次の望みを創造すること





馬淵東一的骨灰葬於小墓碑之下。
馬淵東一先生の遺骨は小さい墓碑の下に眠る。(圖片提供：編輯部)

家祭結束後，由台灣史前文化博物館南科分館籌備處林志興主任，主持馬淵東一百歲冥誕紀念會。首先請政治大學原住民族研究中心林修澈主任，代表台灣學者致詞及獻酒。林修澈主任以「你的一生，像神話；馬淵家跟高家的情誼，像傳說；你的學問，恩澤後代」開場，向馬淵東一的學術成就及影響表達敬意與謝意。冀望原住民族學術研究能夠興隆之餘，念及馬淵東一與台灣原住民族之間的情誼深厚，林修澈主任感性地說：「但是今年，台灣有一個大水災，有很多的原住民族，面臨到滅村滅族的悲慘境界。希望你保佑他們長存快活。」

日本橫濱國立大學名譽教授笠原政治則代表日本學者致意。笠原教授表示，有這麼多人為了馬淵東一老師的百歲冥誕聚集於此，這是馬淵老師的仁德。雖然無法想像80年前，馬淵老

を願っている。

馬淵悟教授も会場で高家の子孫に謝意を表した。3月は日本の大学教育で最も忙しい時期であるため、いつも自ら墓参りができないからである。だが、高家の年配の者は馬淵東一を家族の一員とみなしており、その子孫も馬淵東一を目上の者だと考えているので、馬淵教授にかわって毎年墓参りしている。

等松春夫教授も家族を代表して謝意を示した。等松教授の祖父と馬淵東一はいとこであり、彼が馬淵東一に出会ったときは一滴の酒も飲めない若者だったが、20年後の今日になり、なんと初めておじと酒を交わした。等松教授はさらに、実のところ自分の研究分野とおじとは異なり、研究対象も台湾に限らないのだが、この3、4年は台湾に関わる研究課題や台湾に来る機会がなぜだか増え、まるでおじがあ



小墓碑の背面亦刻有「馬耳東風」四字 (圖片提供：編輯部)
小さい墓碑の裏側にも「馬耳東風」の四字が刻まれている。



林志興主任獻上〈向山林深處追憶你的典範〉一詩，由山西弘朗（左一）譯成日語。
 林志興主任による詩「山林の奥深くに追憶するあなたのパラダイム」の献上、山西弘朗さん（左端）が日本語訳。（圖片提供：編輯部）

師是如何走過池上這個地方，「但有一點很清楚的是，這裡是連結日本跟台灣、很重要的聖地。」笠原教授也不忘幽默地提醒，萬一馬淵老師不滿意現場的酒，請用託夢的方式，告知想喝的美酒品牌。

隨後由林志興主任獻上〈向山林深處追憶你的典範〉一詩，並由政治大學民族學系碩士生山西弘朗譯成日語。

家屬致謝詞

馬淵悟教授代表家屬致謝時表示，今天能吸引這麼多人前來掃墓，實在令他非常驚訝。其實當時父親是希望他能培養原住民族研究領域的學者，所以在他遇到黃貴潮先生，而黃貴潮先生亦有成就之後，就覺得任務應該已經告一段落。馬淵東一大概萬萬都沒想到，現在的原住民族研究者人數如此之多，而且不需培養就已自發學習。台灣原住民族研究現況已超越

引き寄せているようだ、と述べた。池上に来たのは予想もしなかったことだが、自らの目で墓碑に叔父が願う刻んだ「馬耳東風」の文字をみて、感動していた。

馬淵先生を祝福して酔い飽きる

全ての供え物が大きな「馬耳東風」の前に置かれたものの、墓碑にはまた高さ約30センチ、半楕円形で灰色の石製墓碑があり、その上にもまた「馬耳東風」と書かれている。傍らの黒色の大理石墓碑と比べて、この墓碑は少しも目立たずまた何なのかよく分からないように見える。そこで高明生は小さな墓碑を指さし、次のように説明した。「彼の遺灰はあそこにある(小さな墓碑)。よその者が日本人の墓(大きな墓碑)であることを知ると破壊される恐れがあるので、見た感じが入り交っているようにしている。」墓からもきめ細かい配



祭拜儀式結束後即開始焚燒紙錢，讓馬淵東一帶回去花用。儀式終了後、馬淵東一先生があの世界へ持って帰って使えるように紙錢を焼く。
(圖片提供：編輯部)

馬淵東一的期待，但願後一輩能再拓展此領域、創造下一波的期待。

馬淵悟教授也當場向高家子孫致謝，因為3月是他在日本大學任教最忙碌的時期，通常無法親自前來祭拜。然而高家長輩將馬淵東一視為家人，後代子孫亦將馬淵東一視為長輩，年復一年地替他掃墓。

等松春夫教授亦代表家屬致謝。他的祖父跟馬淵東一是堂兄弟，而他遇見馬淵東一的時候，正值滴酒不沾的乖巧年紀；如今竟然在20年後，首次與叔公共進一杯。等松教授還提到，其實自己的研究領域跟叔公不同，研究對象也不僅限於台灣，但這三、四年來涉及台灣的研究議題、前來台灣的機會卻莫名增加，彷彿是叔公在冥冥之中牽引著他。來到池上是他始料未及的，而親眼看見墓碑上如叔公所願刻著「馬耳東風」，尤其令他感動。

祝福馬淵老師 又醉又飽

雖然所有祭品都擺放在斗大的「馬耳東風」前，但墓碑還有一座高約30公分、半橢圓形的灰色石製墓碑，上面亦書寫著「馬耳東風」。對照一旁的黑色大理石墓碑，這座墓碑



掃墓隊伍齊聚高家用餐，趁著酒酣耳熱唱起歌來遙念馬淵東一。お墓参りの後、高家で昼食、お酒を嗜み、熱唱して馬淵東一先生に思いをはせる。
(圖片提供：編輯部)

慮がみられて、両家の友情の深さは言うまでもなく明らかである。

個人で参拝する前に、高明生は再び博筭(ボアポエ)をして、馬淵東一に言った。「お腹一杯になりましたか？皆さんがあなたにすすめようとしています。お酒に酔う準備をしてください。」意外にも博筭が3回ともうまくいかず、その務めを高夫人に任せた。高夫人は筭杯(ボアポエで用いる札)を胸の前で握り、馬淵東一の天の魂がこの墓参りに来た日台の学生に知恵を授け、「あなたが今日酔い満腹になることを望みます」と祈った。言葉が終わると直ちに2枚の札がそれぞれ表と裏になり、皆が喝采した。

個人の参拝が終わってから、会場では紙錢を燃やし始めた。紙錢を燃やすのは馬淵東一が持ち帰り使ってもらうためであり、今年準備した紙錢は特に多く、皆の祝意が非常に深いことを示している。最後に爆竹を放ち馬淵東一を送った。

追想の隊列が高家に集う

墓参りの行程が終わり、一行は高家に行き食



顯得毫不起眼又令人一頭霧水。於是高明生指著小墓碑解釋道：「他的骨灰是那邊那一個（小墓碑）。怕外來人看到是日本人的墓（大墓碑），給他破壞，所以混淆視聽。」連立塚都可透露出細膩的關懷，兩家情誼之深自是不言而喻。

在個人參拜之前，高明生再次搏筊，告訴馬淵東一：「吃飽了嗎？他們要敬你，你要準備酒醉了。」未料搏筊3次都未成功，於是將此任務轉交給高太太。高太太將筊杯握在胸前，祈請馬淵東一的在天之靈，可以加持這些前來祭拜的台日學生、賜予他們智慧，且「希望你今天能又醉又飽。」語畢即搏得聖筊，亦搏得滿堂喝采。

個人參拜結束之後，現場開始焚燒紙錢。燒紙錢是為了讓馬淵東一帶回去花用，而今年準備的紙錢特別多，顯示大家的祝意非常濃厚。最後則燃放鞭炮，恭送馬淵東一。

追思隊伍齊聚高家

結束掃墓行程，一行人前往高家用餐，並享用高家所種植的池上米。酒酣耳熱之際，現場不時傳出美妙的台灣原住民族歌謠，以歌聲寄託對馬淵東一的遙念。高明生亦代表高家祝福眾人，他說，親情、朋友都會過去，馬淵東一所留下的智慧，才是高家最大的收穫。而今天在座的各位又送給高家許多智慧，「來的客人，就是這個家的神」，至於那些還沒當教授的，「未來也還是這個家裡的神，我們在等待。」

最後高明生分享了祖母的一段話：「來的人，就是給我們的福氣；還沒有來的人，就是給我們子孫的福氣。」於是這次的追思活動，就在一股超越血脈、跨越民族界線的溫馨氣氛中，畫下了句點。◆

事をとって、高家が植えた池上米を味わった。ほろ酔い気分になった時、歌声をはるか遠い馬淵東一に届けるため、その場で思いもかけずに、うるわしい台湾原住民族歌謡が流れた。高明生は高家を代表して皆を祝し、肉親の情や友人は過ぎ去ってしまうが、馬淵東一が残した知恵こそが高家の最大の収穫だ、と述べた。また、今日ここにいる皆さんが高家に多くの知恵を寄せてくださり、「来た客人こそがこの家の神だ。」そしてまだ教授になっていない者については「未来もやはりこの家の神だ。我々は待っている。」

最後に高明生が祖母の話をつかち合った。「来る者とは私たちに与える幸だ。まだ来ていない者とは私たちの子孫に与える幸だ。」そして、今回の追想会は、血のつながり、民族の境界を越えた暖かさの中で、終止符を打った。◆

每當馬淵東一拜訪池上，地方總會替他祝福、慶賀。圖中為馬淵悟。

馬淵東一先生が池上を訪れるたびに、地方総会が歓迎し祝福していた。写真に写っているのは馬淵悟先生。（圖片提供：高明生）

